

KANAZAWA MACHIYA



金澤町家巡遊 2024

香林坊周辺 まちなかの町家 11/16(土)・17(日)

金澤町家とは

昭和25年以前に建てられた木造住宅の総称。武家・足輕屋敷・町家・近代和風・洋館等、建築様式は多様ですが、風土文化に応じた職人技が随所に見られます。金沢市内に約5800軒ありますが、年間約100軒が壊されています。

"Kanazawa Machiya" is used as an inclusive term in order to call the traditional timber-framed buildings built before 1950 in Kanazawa City, which includes samurai houses, townhouses, and modernized Japanese houses. Although their types are diverse every building has attractive traditional craftworks adapted to the local climate and culture. Around 5,800 buildings have still remained in Kanazawa City and more than 100 ones are destroyed every year.

金澤町家研究会とは

建築家・技術者・大学教員・町家の住まい手の集まりで、金澤町家の活用・再生・継承を目的に、必要な調査研究、普及啓発、実践活動などを、行政と連携しながら取り組んでいます。2008年より毎季に開催している「町家巡遊」は、金澤町家を巡り、建物見学・展示・レクチャー・体験・飲食などを気軽に楽しみながら、町家の魅力を体感できるイベントです。

金澤町家研究会事務局

〒920-0854 石川県金沢市安江町4-20
TEL:076-254-0647 FAX:076-254-0657
平日 9:30-17:30 土日祝休み
✉ kanazawa-machiya@nifty.com
✕ @kanazawa_mj
@kanazawa_machiya_j
http://kanazawa-machiya.net

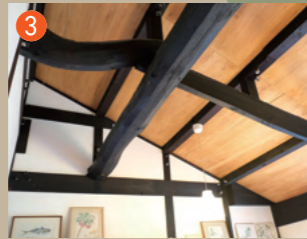
※情報は2024年10月時点のものです。変更の可能性がございますのでご注意ください。



2階正面の壁は梁組を化粧で現すアズマダチと呼ばれる意匠。



雪見障子のガラスには風景画が描かれている。



工房の天井は特徴ある形の丸太張りがむき出しになっている。



床は桐の板。一部が戸になっていて開けると床下に煉瓦積のムロ。



九谷焼絵付け体験の他、金継ぎや漆の教室などに使う工房部分。



引手の意匠も襖によりさまざま。



背戸の小ぶりな灯笼。火袋の窓には三日月の意匠。



背戸(奥の庭)に面したゆったりした広縁に布張りの古い椅子。



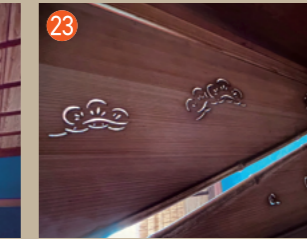
1階座敷書院の欄間障子は、複雑な棧の意匠。



2階座敷の青い壁と欄間。竹と梅と菊の彫刻が施されている。



2階座敷の天井から吊られるタッセル付きのペンダント照明。



2階の書院欄間は、松と梅の意匠に竹材を組み合わせ、松竹梅を表す。



豪華な蒔絵の桐火鉢。茶道具も継承し活用している。



主屋の正面左の駐車場にあった木造の洋風建築。診療所として建てられ、帝国データバンク金沢支店として活用され1988年に取り壊された。



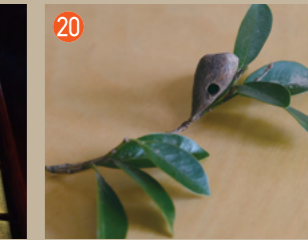
オフィスやホテルなどのビルに囲まれる工房ひよんの木。金沢の都心軸で、大通りから見える位置に残る町家は貴重な存在だ。

拠点町家 11/16(土)・17(日) 11:00-17:00 公開 工房ひよんの木 香林坊2-5-29 (旧野村家住宅主屋)



1922年建築、1928年増築
2014年国登録有形文化財に登録
国登録有形文化財 建造物

金沢らしい特色のある近代和風住宅です。主屋は土塀に囲まれた敷地の中ほどに建ち、その前後には緑豊かな庭があります。武家住宅の名残りを大いに感じる外観で、2階の正面の壁は梁組を化粧で現すアズマダチと呼ばれる意匠。1階の奥には土縁のある8畳の座敷が並び、2階には彫刻欄間や青色の壁が華やかな、瀟洒な意匠の座敷があります。



ひよんの木の虫こぶは笛のように鳴る。漆を塗って販売もしている。



土塀の中から出てきたという美川の本吉いぶし瓦。



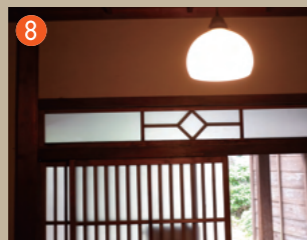
整えられた外側の石積みと比べ、内側は大小様々な石がランダムに。



伝統的な手法で作られている土塀も、国指定登録有形文化財。



定期的な庭木の剪定が入り、庭の美観を維持している。



玄関のガラス欄間には中央部に菱形の意匠が施されている。



家具や小物は昔からあるものをうまく活用している。



土縁と呼ばれる土間の縁側に籐の椅子が置かれている。



一階座敷の床の間。金箔貼りの襖に七宝焼の引手。床框は黒漆塗り。



土縁にある下駄や草履。主庭に出る際は草履ではなくサンダルどうぞ。



金沢市の保存樹に指定されているひよんの木の脇には苔むした灯笼。



四角い手水鉢には香道の香の図の紋様。似た物は兼六園にもある。



工房の名前の由来でもあるひよんの木。正式名称はイスノキ。

香林坊周辺 まちなかの町家

金澤町家巡遊 2024
11/16(土)・17(日)
10:00-17:00

今年の金澤町家巡遊は、存続継承が求められている「工房ひよんの木」を拠点に、香林坊周辺の町家を巡ります。工房ひよんの木は、建物・庭・土塀など、往時の武土地の伝統的な形をそのまま残す、大変貴重な屋敷構えです。ビルや駐車場などの土地利用が進んだ香林坊という場所で、それらを大切に存続させながら生き生きと活用されている姿は、金沢という歴史都市とそこに住む人や訪ねる人にとって、代えがたい価値であると考えます。このような町家が壊されることなく、金沢の魅力に末長く貢献されることを心より願いながら、ぜひ一度この素敵な町家をご覧いただきたく、大勢の方のお運びをお待ち申し上げます。

まちなかの町家、路線バス、ふらっとバスなどの公共交通機関をご利用ください。



町家ツアー

生き字引の建具屋さん 町内を歩く

11/16(土) 10:00-11:30頃

ガイド: 西田守男 (建具職人)
要予約 定員10名 1000円 (お土産付き)

ひよんの木のご近所さん、建具屋の西田さんによる町内ツアー。香林坊の今昔を知る西田さんに町内を案内していただいた後、松声庵の中を見学します。

西田守男 (にしだりお)
1943年生まれ。建具職人。中学卒業後に家業を継ぎ、職人歴45年。茶室も含めた自邸の増改築を自ら手がけた。数寄屋建築に造詣が深く、茶道も嗜み、金沢職人大学の茶道講師も務める。

町家ツアー

長町の『時』の重なりを歩く

11/16(土) 14:00-15:30頃

ガイド: 高橋元貴 (金沢工業大学講師)
下坂裕美 (建築デザイン事務所川川代表)

要予約 定員10名 1000円 (お土産付き)
武家屋敷跡として知られる長町界隈はどのような歴史を重ねてきたのか。現在の町並みや建物のなかに、そのいくつもの『時』を読みとりながら歩きます。

高橋元貴 (たかはしげんき)
1986年生まれ。金沢工業大学建築学部建築学科講師。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻助教を経て、2022年より現職。専門は建築史・都市史。都市および建築の歴史を、実測調査や図像史料、古文書の読解を通して研究。著書に『江戸町人地の空間史—都市の維持と存続』(東洋館出版会、2018年)など。

下坂裕美 (しもさかゆみ)
1989年生まれ。一級建築士。建築デザイン事務所川川代表。あとりえ。所属。大学院で都市史を専攻し、沼地や島嶼について研究。清水建設設計部に勤めた後、2022年より拠点を金沢に移し、町家改修などに携わる。

町家ツアー

加賀藩重臣前田土佐守家のお屋敷跡を歩く

11/17(日) 10:00-11:30頃

ガイド: 竹松幸香 (前田土佐守家資料館副館長兼学芸員)

要予約 定員10名 1000円
(前田土佐守家資料館所蔵資料の複製「金沢城下絵図」付き)

高岡町の現在マンションや住宅が並ぶあたり一帯に、加賀藩重臣・前田土佐守家の屋敷がありました。1630年には既にあったようで、延宝期(1673-1681年)の城下絵図では約3000坪(約9900㎡)の広い敷地があったとか。400年ほど前の武士たちの生活に思いを馳せながら、屋敷跡とその周辺を歩きます。

町家ツアー

町家散歩 香林坊～高岡町

11/17(日) 13:30-15:00頃

ガイド: 坂本英之 (金沢美術工芸大学名誉教授)

要予約 定員10名 1000円 (コトリワインのドリンク付)

海外生活が長いアーティストの住居を見学し、松声庵の前を通って、コトリワインで改修設計をした山本周さんにご案内いただきます。

坂本英之 (さかもとひでゆき)
1954年生まれ。金沢美術工芸大学名誉教授。ドイツのシュトゥットガルト大学都市デザイン研究所客員研究員を経て、シュタットパウ・アトリエに勤務。1995年に帰国し、金沢美術工芸大学で教員を務める。2003年より2020年まで同大環境デザイン専攻教授。NPO法人金澤町家研究会理事。金沢職人大学校理事長・学校長。

建物や庭のお話

改修設計者による 建物の話

11/16(土) 13:30-
無料 予約不要

講師: 高川順正 (有限会社金沢設計)

工房ひよんの木を改修設計された設計士・高川順正さんに建物の解説をしていただけます。予約なしで自由にご参加いただけます。

高川順正 (たがわじゅんせい)
1956年金沢市生まれ。有限会社金沢設計代表取締役。一級建築士。歴史的建造物修復士。1979年武蔵工業大学建築学科卒業。株式会社建築企画(現・三宅伸秀建築研究所)入社。1983年株式会社ヒゲウコン建築事務所入社。1996年より金沢設計を共同経営。2004年有限会社金沢設計に改組。古民家再生を中心に手がける。

喫茶とおやつ

縁側喫茶 豆月

11/16(土)・17(日) 10:00-17:00

工房ひよんの木 縁側にて

東山二丁目の町家の豆カフェ・豆月さんが、会期中限定で縁側に出店していただけます。ふ〜ふう〜、身体温まるスープやコーヒー、しっとりエアリーなシフォンケーキなど、どうぞのんびりお楽しみください。

冬の日替わり豆スープ
お豆腐のシフォンケーキ
ハンドドリップコーヒー

HUG mitten WORKSの黒瓦クッキーも販売します。

ワークショップ

すべて工房ひよんの木にて 関守石作り

11/16(土) 10:15-12:00頃

講師: 中田祐貴 (兼六造園)

定員10名 参加費1000円 予約可

石に棕櫚の縄を縛って、結界となる関守石を作ります。結界はもちろん、オブジェにしても。

中田祐貴 (なかつゆうき)
1980年金沢市生まれ。庭師・樹木医。(有)兼六造園代表取締役。金沢工業大学建築学科・金沢職人大学校(造園、修復専攻科)卒業。土木系コンサルタントを経て家業を継ぎ、作庭や維持管理・樹木治療にも携わる。

公開町家shop

コトリワイン

高岡町12-15 tel. 076-204-7002

11/16(土)・17(日) 11:00-16:00 公開

昭和初期に建てられた近代和風住宅を改修し、欧風料理とワインの店として営業。通常は夕方からの営業ですが、町家巡遊期間中のみ昼間もオープン。限定数ながら、ワインやチーズ、ソフトドリンクも注文できます。建物見学のみも可。庭や床下に眠っていた石や石臼、石垣などを使ったアプローチも見どころ。

コトリワイン建物解説

11/17(日) 13:00-16:00

改修設計をされた山本周さんによる建物説明あり。

山本周 (やまもとしゅう)
1985年新潟県生まれ。2009年金沢美術工芸大学大学院修了。2009年より2015年まで長谷川豪建築設計事務所勤務。2018年より金沢美術工芸大学非常勤講師。2021年より金沢工業大学非常勤講師を務める。金沢市の住民が作り出した風景を収集し、本にまとめる「金沢民景」の活動も行っている。

鏗隆弘先生の庭の話

11/17(日) 10:30-11:30頃

無料 予約可

講師: 鏗隆弘 (金沢美術工芸大学教授)

鏗隆弘 (つばたかひろ)
1962年金沢市生まれ。ランドスケープアーキテクト。金沢美術工芸大学ホリスティックデザイン専攻教授。環境調査の業務経験後、アルプ設計室で緑地や建物の設計を担当。独立後は大乗寺丘陵総合公園など緑地設計に関わる。現在は公園緑地庭園の設計、城下町の日本庭園の調査や維持管理活動、街並調査研究にも携わる。

お申し込み先

申し込み開始日時
11/8(金) 10:00-

専用フォームからのネット予約または電話予約でお願いします。先着順。返信をもって受付完了。

金澤町家研究会事務局

☎ 076-254-0647
(平日 9:30-17:30 / 土日祝休)

ご予約フォームはこちら →
<http://kanazawa-machiya.net/mj/now/>

なるべく公共交通機関や徒歩・自転車などでお越しください。駐車場はございませんので、車の方は有料駐車場をご利用ください。

九谷焼赤絵付け体験

11/17(日) ①10:00-②12:00-③14:00-④16:00-

講師: 工房ひよんの木

定員7名 1500円 予約可

三寸の丸皿に赤絵で絵付けできます。
※完成後引き取りまたは箱着払いで発送

尚榮堂

高岡町 9-24 tel. 076-221-5589

11/16(土)・17(日) 11:00-16:00 公開

町家の活版印刷所。壁一面に並ぶ活字は壮観。活版印刷で名刺やハガキなどの印刷をお願いします。活版印刷によるオリジナル商品も作られています。看板猫はすみれさん。

金澤町家

- 1 天窓
- 2 黒瓦
- 3 鳥依み
- 4 腕木
- 5 下見板
- 6 木虫籠
- 7 さがり
- 8 袖引建
- 9 漆喰壁